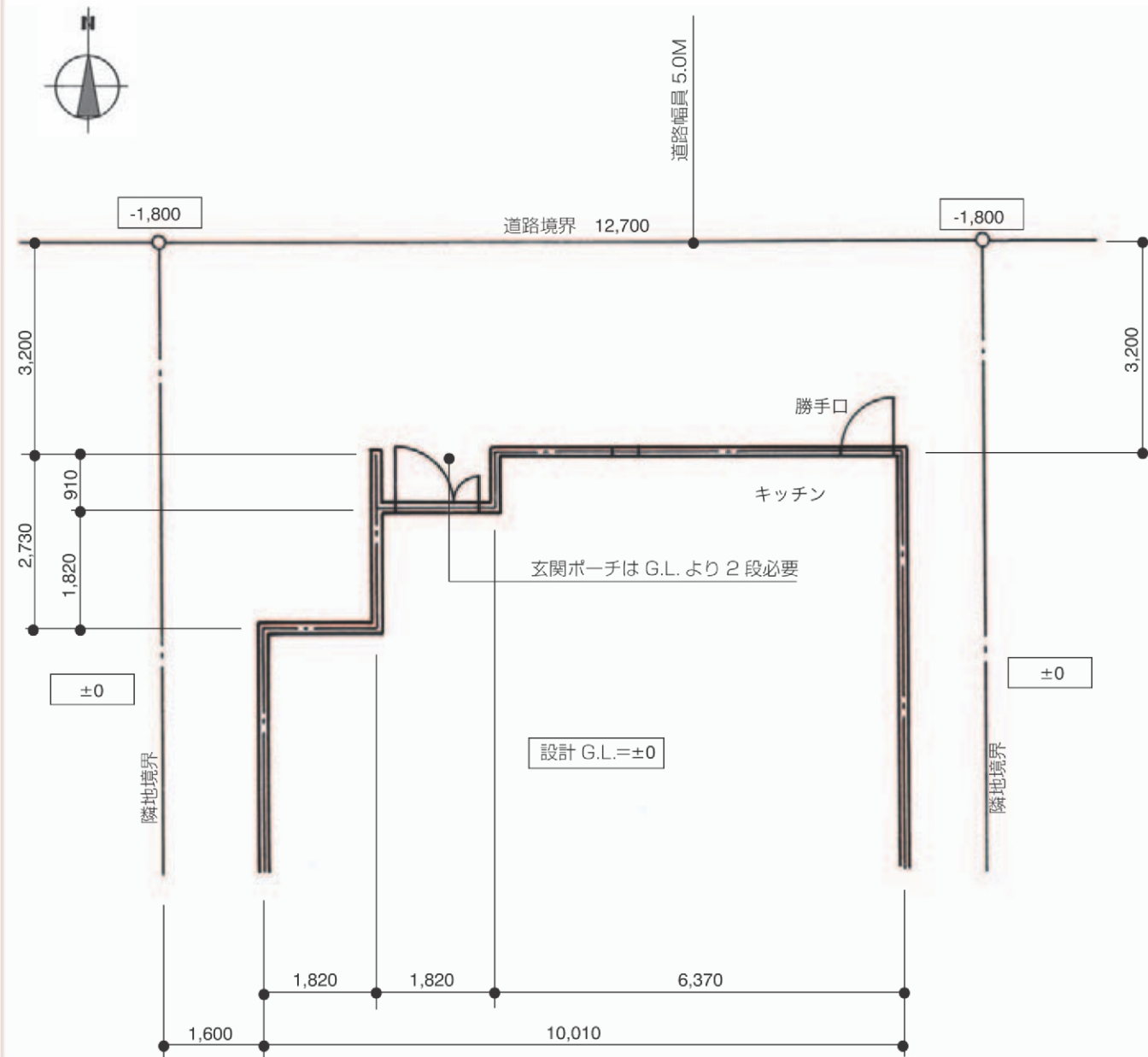


第3回目の課題について

敷地条件は北入りで、道路と敷地の高低差は1,800mmとなっています。

下記の敷地条件や施主の要望を踏まえて、ゾーニング図・平面図・立面図（可能であればパース図）を作成し、模範プランと比較できるように準備しておいてください。

1. 敷地条件



2. 施主の要望

- 駐車場を1台分確保してください。
- 道路と敷地の高低差が大きいので玄関までのアプローチ（階段）を提案してください。
- 玄関ポーチはアプローチと合わせて計画してください。（標準ポーチの天端高さはG.L.より350mm上がり）
- キッチンの勝手口から出たところにサービスヤードを提案してください。
- 建物の東および西側は人の通路を確保しておいてください。
- 東および西隣地境界は内積みでブロックフェンス、必要に応じて擁壁を設けてください。
- スタイルはオープン、クローズどちらでも結構です。

「私ならこう考える! ゾーニング手順と計画時のポイント」

1. 階段の段数の検討

このように道路と敷地の高低差が大きい物件の場合は、必要な階段の段数についてまずチェックしておきます。今回の課題における敷地と道路の高低差は1,800mm(1.8m)となっていますので、この高低差1,800mmを仮の段数で割ってみて、その数値が1段あたりの蹴上げの寸法となるので150mm~180mm程度となるように段数を決めていきましょう。

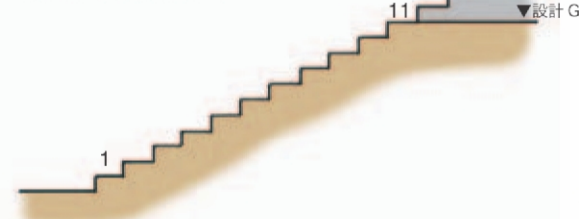
仮に8段で計算すると $1,800\text{mm} \div 8\text{段} = 225\text{mm}$ となり蹴上げが高すぎることがわかります。10段で計算すると $1,800\text{mm} \div 10\text{段} = 180\text{mm}$ となり、上限値ギリギリです。階段の段数が少ない場合は問題ありませんが、今回は段数が多いので1段追加して11段として再度計算すると、約164mmの蹴上げとなるのでちょうどよいことがわかります。

2. 階段の考え方

では次に11段の階段+玄関ポーチ2段の計13段をどのように計画すればよいのか検討しましょう。

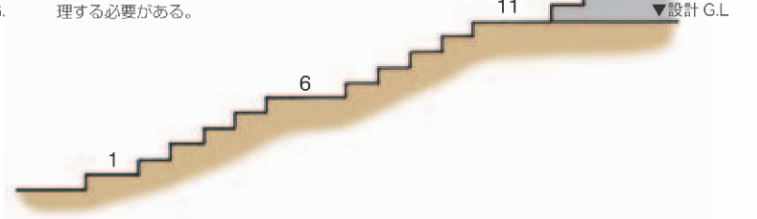
パターンA

玄関ポーチまで一気に上がる階段。コンパクトに納められるが、上がり下りが大変で、危険な階段となる。



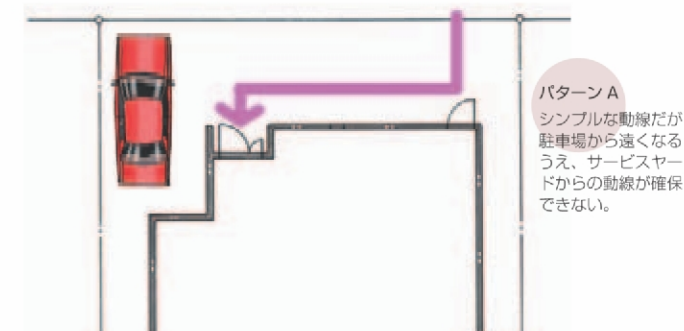
パターンB

1段目を多少広くとるとゆとりのある雰囲気。途中と玄関ポーチ前に踊り場を設けると上がり下りが楽になるが、階段が長くなるので曲がり階段などで処理する必要がある。



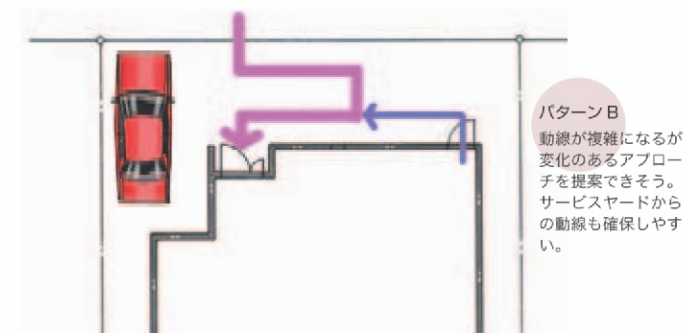
3. アプローチ動線の検討

次にアプローチ動線をどのように確保すればよいのか、駐車場を北西角にすると検討してみましょう。



パターンA

シンプルな動線だが駐車場から遠くなるうえ、サービスヤードからの動線が確保できない。

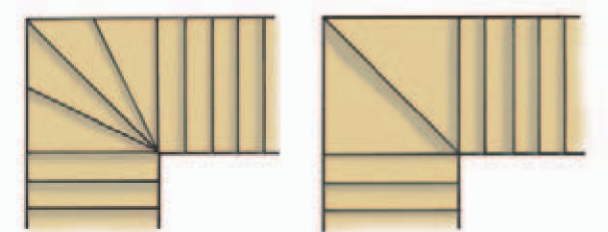


パターンB

動線が複雑になるが変化のあるアプローチを提案できそう。サービスヤードからの動線も確保しやすい。

4. 曲がり階段の注意点

アプローチ動線をパターンBのようにすると、曲がり階段を採用することになると思いますが、その場合は踏み面の寸法について注意が必要です。



パターンA

あまり細かく切ると内側の踏み面幅が狭くなってしまい危険。

パターンB

45度で切れば内側から30cmのところまで踏み面寸法が30cmとなるので安全。

5. 転落の恐れがある場所での手摺の高さ

転落して危険な場所には、高い方の床から1,100mm以上の高さの壁または手摺が必要となるので注意しましょう。

